

閉校した小学校を食農の学び舎へ

1250127 野口凜々花

指導教員 渡辺 菊真

高知工科大学 システム工学群 建築・都市デザイン専攻

1. 設計の背景

熊本県の東部に位置する山都町は、有機農家数が日本一と農業が盛んな町である。町域が高冷地の気候に属しているため、高原野菜の栽培が行われるなどの特色がある。農業が生活と共にあり、生活の情景の中には必ず農作業の風景がある自然豊かな町だ。しかし、昭和35年から町の人口が減少し続け、全国の農山村部と同じく少子高齢化による後継者不足が課題となっている。山都町は、町民の人口減少や少子化、2005年の町の合併により5つの小学校が閉校した。現在は更に2つの小学校が廃校となり、町内には多数の廃校が残されている。このような現状から、残された廃校を活用して、山都町の食や農について知り、実際に体験できるような施設をつくり、地域農業を後世に残したいと考えた。

2. 対象敷地

対象敷地として選んだ場所は、旧下矢部東部小学校である。旧下矢部東部小学校は、町の西部にある白小野地区にあり、緑川の支流である白小野川と国道445号線沿いに位置している。阿蘇の南外輪山と九州山地の間にあるこの小学校は、斜面を切り開いて出来た田畑に囲まれ、空を近くに感じるほど自然豊かな場所である。



写1.小学校校舎の全体写真



写2.小学校周辺写真

旧下矢部東部小学校の歴史は古く、1875年にとある民家を使って開校し、3度の校舎移転や建て替え、校名の改

名を行い2005年に閉校した。学校行事では、子供だけではなく地域の大人も参加し、地域と共に小学校の歴史が積み上げられた。閉校後も地域の行事や住民の集会所として利用され、開校時も閉校時も地域の拠点として在り続けている。町内に存在する廃校と比較した旧下矢部東部小学校の大きな特徴は、校舎の築年数が浅いこと、農場が隣接していることが挙げられる。そのため、ここを対象敷地として選択した。

3. 設計の目的

旧下矢部東部小学校を山都町の食や農について知り体験する食農の学び舎へと再生する。この施設を通して、地域農業を身近に感じ、地域課題の解決と地域の活性化が促進されることを望む。

4. 設計の指針

以下の4点を指針として定める。

- ①食農の学び舎を含めた農中心の地域風景を形成する
- ②食農の学び舎と農場をつなぐ
- ③小学校を、支援機能を含む食農の学び舎へ改修する
- ④食農の学び舎の活動模様を発信する

5. 設計内容

5-1.地域風景の設計

山都町は自然の風景と、農的な風景が調和した地域風景が成立している。



図1.地域風景のダイアグラム

農との関係が少ない小学校とそれを取り巻く地域風景の境界を緩やかにするため、農業用資材を使った農装空間を設計する。小学校の敷地内で、校舎や体育館などの既存建物以外の空間を設計の対象とする。

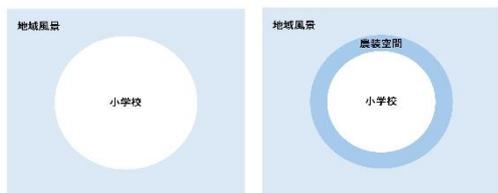


図2.設計のダイアグラム

農装空間は、農業用資材で建築可能なビニールハウスを基にした空間とし、ビニールハウスの資材や構法を基に、それらを分解・再編し設計する。

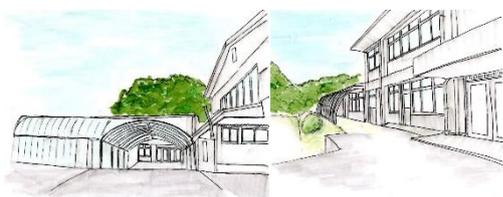


図3.農装空間のパス

5-2.学び舎と農場の連結空間の設計

旧下矢部東部小学校の敷地とビニールハウス農場の敷地は高低差があり、校舎と農場の間には体育館がある。現状、校舎から農場に行くためには体育館を迂回して行かなければならない。校舎と農場の結びつきを強めるために、体育館の東西の小スペースを動線として利用し、シートとパイプを使って設計する。体育館西側はシートを張ったトンネル空間、東側はシートを垂らしたトンネル空間とし、異なる空間の対比によって魅力向上を図る。

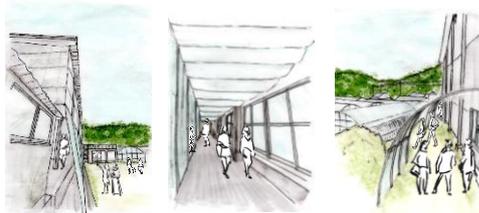


図4.連結空間のパス

5-3.学び舎の内部設計

旧下矢部東部小学校の校舎を学び舎として活用する。校

舎は、鉄筋コンクリート造の2階建てである。既存校舎の躯体と間取りを基に、校舎の1階中央にある多目的室、家庭科室、理科室は食農教室として利用する。校舎南の学年教室は、就農希望の農業研修者の簡易宿所として利用し、シャワールームやトイレ等を完備する。



図5.校舎平面図

5-4.活動模様の風景化

食農の学び舎は、利用者や活動の有無によって、運営時期や状況が変化する。活動模様の風景化は、5-1と5-2で定めた農装空間を固定化するのではなく、施設利用者自ら可変し、人が活動する情景を発信する。これは、限定された時間に多くの人を呼び込むのはもちろん、単純に農装空間の変容を楽しむためでもある。可変の方法として、5-1で定めた農装空間のシート巻き上げなどがある。

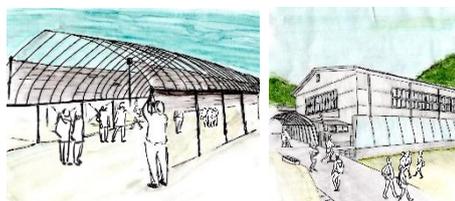


図6.農装空間の可変を含む活動

6. まとめ

町に残された廃校を使って食農の学び舎を提案し、農業資材でつくる空間で、農を中心に据えた情景を生み出すことができた。この施設が、地域農業の明るい未来のための一助となることを願う。

7.参考文献

- ・JA グループ 食や農を学ぶ
<https://life.ja-group.jp/education/description/>
- ・旧下矢部東部小学校閉校記念誌「あかね雲」
- ・国土地理院地図